

20年のあゆみ

昭和62年



社団法人 全日本断酒連盟

呉みどり断酒会



二十年をふりかえって

呉みどり断酒会会長 入澤 卓

私達、呉みどり断酒会は、昭和四十二年二月九日、故兎玉正孝氏、現広島断酒ふたば会理事長、熊野久夫氏の御助言と、長尾病院院長、長尾邦雄先生、呉みどりヶ丘病院院長、長尾澄雄先生の強力な御支援により、院内断酒会として結成されました。しかし、その後永い試行錯誤の時期を経過して、断酒会の組織として定着する迄には十数年を要しました。当会は一般の地域断酒会とは異なり、アルコール症専門病院との深い連繋の上に成り立った特色があります。当会のかつての病院依存一辺倒は、酒害者の他者依存の縮図以外の何ものでもありません。個人はもとより、断酒会の自我確立こそ私達会員の最重要課題であります。私達は酒害を識ったが故に断酒を望んで居ります。私達は底知れぬ孤独を味わったが故に温かな団居を求めて居ります。今ここに、かつての自から招いた無為、自閉の苦悩を省みる秋、社会的存在としての人間性に目覚め、酒害克服を通して人生の意味と価値を追求して行かねばなりません。私達は、この断酒活動に御理解を戴く皆様方のお陰で今日があります事をここに深く感謝いたします。

私達は各自の断酒歴、会の現状に甘んじる事なく、どこまでも謙虚に、あの自己破壊の過去を忘失せず、目的達成の為に、その役割を演じて行く重い責任を痛感して居ります。そして会員相互の共感と連帯を、より一層堅固なものとして、未だ酒害に難渋して居る人々に断酒を説き、その道標として些かなりとも社会に貢献して参る所存であります。

私達は当会の創立二十周年にあたり、会員一同手を携えて呉みどりヶ丘病院との緊密な関係を保ち将来に向って、より活力のある、開かれた断酒会を目指し、自助集団としてのアルコール症治療を展開して行きたいものと念じて居ります。

どうか私達の、この断酒活動に対して、行政、地域社会のより一層の御理解をお願い致しますと共に、朋友断酒会同志の皆様方、変らざる御教導を賜わらん事を切にお願い申し上げます。



祝 辞

呉市長 佐々木 有

呉みどり断酒会が創立二十周年を迎え、これを機に記念誌が発刊されますことは誠に喜ばしく、心からお祝い申し上げます。一口に二十年と申しますが、人の年齢で言えば成人式を迎えたわけで、誠に同慶の念に堪えません。

古来、酒というものは、適量では快楽を、一方多量飲酒は心身に害を与え、いわば禍福はあざなえる縄の如くといったようなものです。また、多量飲酒は、王者の幸福がいかに危ないものかを表わすダモクリスの剣、つまり王座の上に一本の毛髪で吊り下げられた剣のようなものでいつ害を受けるか知れません。こういった飲酒による禍を防ぎ或いは癒すため、長尾邦雄、澄雄両先生を始めとする関係者が断酒会を結成され、今日に至るまでの二十年の長きにわたり、その実をあげられている事は、広く巷間に知れ亘っていることであり、これら関係者のご努力には頭の下がる思いが致します。

厚生省の統計によりますと我国における飲酒人口は、年々増加し、昭和五十八年現在で、六千二百万人と推計され、そのうち、アルコール依存症者数は、百九十万人を超えるものとされています。

現在の複雑な社会構造から生ずるストレスを解消するため、或いは食生活の多様化から飲酒の機会が多くなり、酒を断つことは極めて至難の技です。従いまして、断酒には強固な意志と家族や周囲の人々の温かい理解と協力が是非とも必要です。こういった断酒を支えるものとして、呉みどり断酒会の存在と活動はアルコール依存者にとって大きな福音を与えるものです。

貴会の会員、家族の方々、長尾先生ご兄弟を始めとする関係職員の皆様におかれましては、断酒に悩まれる人々が、少しでも早く明るい社会生活を送ることができるよう一層のご活躍をお願い致します。

終りに、呉みどり断酒会のみましますのご発展と会員皆様方のご健勝を心から祈念し祝辞と致します。



呉みどり断酒会 創立二十周年を祝つて

医療法人緑風会
長尾病院院長 長尾邦雄

呉みどり断酒会創立二十周年おめでとうございます。

昭和四十二年一月十七日八丈島断酒道場児玉正孝道場長(故人)、広島断酒ふたば会高橋和義会長(故人)、熊野久夫副会長が、長尾病院を訪問くださり、断酒会に対する情報を提供いただき、二月九日院内で始めて会合が持たれました。それが呉みどり断酒会の発足です。

一口に二十年と申ししても、その間には会の盛衰に幾多の変遷がありました。が、会員各位の良識と、お互いが尊重し合うという善意の精進により、今日の呉みどり断酒会の盛況を見ます時、会の創設より関わりを持った者の一人として誠に感無量のものがあります。

今日まで会を支えていただいた多くの方々のご努力に心より感謝を捧げたいと思います。

偕、現在アルコール症の治療における断酒会の果す役割については異存を唱える人はないと思いますが、ここに至るまでには、一人一人の会員が自分の断酒実践を通じ堅実に一步一步自分の行動を律して、社会で活躍して来られた成果でありまして、例会等で常に語られます皆さん方の体験の一つ一つがお互いに貴重な教材として働いている事を忘れてはならないかと思ひます。そして酒害からの脱出、その再発防止の為に常に断酒会、病院、保健所、福祉機関等が緊密に有機的に連携して進む事が大切だと思います。

そういう意味に於ても呉みどり断酒会が常にお手本として、正しく成長されるよう心より祈念してやみません。二十周年を機に、もう一度みんなで会創設の原点に帰り、力を合せて前進して下さるようお願いしてお喜びを申しのべます。



創立二十周年を祝して

呉みどりヶ丘病院院長 長尾 澄雄

この度、呉みどり断酒会が二十周年を迎えられますこと、心よりお慶び申し上げます。

創立当時より関わりを持つ者として、今日、このように斯界で活躍出来ますような成長を見ましたこと、本当に嬉しく思う者であります。

二十年の間には、種々と曲折はありましたが、何とか、それを回避し、否、それを踏み台として、今日を見たこと、その間、与せられました会員諸兄のご努力に対しては、深甚の敬意を払いたいと思います。

又、私どもの呉みどりヶ丘病院の入院患者の治療並びに退院者のアフターケアに貴会は欠かせない存在であり、その点、アルコール医療に与せられた貢献は非常なものであると言えましょう。

二十年の歳月の間に断酒会は、アルコール症の自助組織としての地位を立派に確立、世間にこれを認知することに成功されました。これは二十年前には、想像だに出来なかったことであります。しかし現実には、名のみ先行し、実が伴わない会も存在することは、歪めない事実であります。

このような時に当たって、呉みどり断酒会のオピニオンリーダーとしての、一層の活躍を祈念するもの大なるものがあります。真の「断酒」とは、只、酒を飲まないと言うものではなく、それに人間的な成長、人格の改善が伴うものであります。

会員諸兄が今後更に努力を続けられて、一人自らの成長のみでなく、斯界の発展に大きく寄与されることを願って、祝詞と致します。



ご挨拶

(社)全日本断酒連盟理事長 大野 徹

創立以来、二十周年、まことにお目出とうございます。又「二十年のあゆみ」をご刊行になり、それに何か寄せよとのご依頼を受けました。大変光栄に存じます。

私の悪い癖でメ切り間際にならぬと筆をとりません。今回もまた然りで、お恥しい次第です。

さて祝辞となると、とかく美辞麗句めいて仕舞いそう、私のあまり好むところではありません。そこでお赦しを願って、近頃思うことの二三を述べさせていただきます。

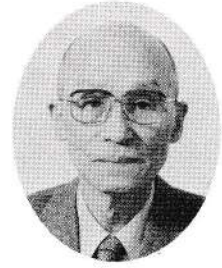
その(一) 全国各地の断酒会研修会などで「組織か人か？」が論ぜられることがままあります。これは古くて新しい問題でありましょう。私の考え方としては、何れも大切であります。どちらかに片寄らぬこと、バランスが大切であろうと思えます。

その(二) 最近、民活という言葉が新聞紙上に出ます。これは民間活力のことです。今更新しく言われなくとも私たちの断酒会活動は民活そのものであり、ときに時代の先端を歩いて来たことでもあります。今後もこれを継続すれば良いと思えます。

その(三) これもしばしば耳にするもので、「第三セクター」という、ちょっと判り憎い言葉があります。もの書によって見ますと「本来なら国や自治体が行うべき行為に民間の能力を導入してより効果を上げる事業体」という説明です。これまた私たちの活動は時流れを先取りした感もあります。大変理屈めいて、ご免下さい。

特に貴会は、全国でも有数なアルコール専門の呉みどりヶ丘病院との絶妙なコンビネーションをもっておられます。

立派な会長さん、そしてこの病院、まさに鬼に金棒とはこのことでありましょう。大変蕪雑なことを述べました。お赦し下さい。一層のご発展を祈って、ご挨拶にいたします。



祝 辞

(社)全日本断酒連盟参与 山方辰三郎

呉と言えば誰もが、すぐに日本一の専門病院を連想します。私共の会でも、どうにもならない重症の方達が何人もお世話になったお蔭で今は立派に立直り、夢想もしなかつた幸せな生活をしておられますが、その呉みどりヶ丘病院と密接不離のみどり断酒会が発展途上に二十周年の記念日をお迎えになりましたことは、誠にお芽出度い限りで、ご同慶の至りに存じ上げます。

会員並にご家族のお方はもとより長年に亘り御指導と御援助をお続けなさいまして今日まで暖く見守って来られました長尾邦雄先生、長尾澄雄先生はじめ関係職員の皆様の感慨も、ひとしおの御事と拝察申し上げます。

又呉みどり断酒会の日頃の活発なご活動が朋友断酒会員の断酒継続にも大きな役割を果しておられますことは、本当に有難いこととで多くの関係者から感謝されております。

医療の指導と援助があつて、はじめて信頼される断酒会として発展することを私達は断酒会の長い歴史の中で教えられてきましたし会を離れて行つた会員が例外なく元の木阿弥になつて、みじめな末路を辿つていつた事を、いやと言う程見せつけられて参りました。

お互に運よく断酒会に巡り合う事の出来た私達は、どんな事があつても会から離れないで、しっかり手をつなぎ、たつた一つしか無いこの道を歩みつづけ「酒をやめ続ける事が出来て本当によかつた」腹の底からそう思える日が来るまで励まし合つて頑張りつづけ、残された人生の日日を充実したものにしたいと存じます。

終りになりましたが呉みどり断酒会の皆様が、ますます御元気で精進され、お幸せにお過し下さいますよう心より祈念申し上げますと共に関力をあわせられ更に大きく輪を広げて下さいますよう御願い申し上げます。



創立二十周年を御祝いして

(社)全日本断酒連盟副理事長 熊野久夫

創立二十周年を迎えられ誠にめでとう御座います。心から御祝い申し上げます。

特に貴会は全国組織である(社)全日本断酒連盟に加盟の約四百五十団体の中でも八番目に発足されたと記憶して居りますが、正に草分け的な存在であります。そうであればこそ、創立以来の断酒活動、組織運営には幾多もの試行錯誤の繰返しをされ、たび重なる障害にも挫じけることなく大変な御苦心をされた事と思います。

かくして確固たる基盤を築かれて今日を迎えられた会長様始め会員の皆様に対して深甚の感謝と敬意を捧げる次第です。

貴会の名前を思い浮かべるときに自動的に脳裏に浮かび上がりますのは、いち早く酒害者を御理解下さり暖かい愛情を注いで下さった長尾病院長、長尾邦雄先生並に呉みどりヶ丘病院長、長尾澄雄先生の御名前であり、貴会を生み育てて下さった貴い御姿であります。この時に当り、共に衷心より感謝の意を捧げたいと存じます。

次に貴会は、全日本断酒連盟の運営業務に先駆者として、立派な役割を果たして来られました。そして広島県断酒会連合会に於いても指導的立場で多大の貢献をして下さり、そして、また相前後して発足しました小生の所属して居ります広島断酒ふたば会とは発足以来の格別の御交誼を賜り、茲に更めて心からなる感謝を申し上げますと共に今後とも変らぬ御支援御交誼を御願い申し上げます。

おわりに当りまして貴会の今後の益々の御発展と会員の皆様の御多幸を御祈り申し上げます。



創立二十周年をお祝して

香川県断酒会会長 岩崎 広明

呉みどり断酒会の創立二十周年おめでとうございます。

また、このたびは、記念誌「二十年のあゆみ」が発行されると承り、衷心よりお祝いと、お喜びを申し上げます。その記念誌に、祝辞を寄せさせていただけます光栄と、その心づかいに感謝いたしております。

二十年の断酒のあゆみは、きびしく、永い道のりだったと推察いたしますが、その間、幾多の困難をも克服されて、この輝かしい二十周年をお迎えになられました皆様のご努力に対し、心から敬意を表し、万雷の拍手をお贈りいたします。

特に、長尾邦雄、長尾澄雄両院長先生の、親身にも及ばない暖かいご指導とご尽力は、今さら申し上げるまでもございません。それだけに、二十周年をお迎えになられます両院長先生のお喜びも、また、格別なものがおありだろうと拝察申し上げます。

呉みどりヶ丘病院は、貴会とよく呼応されて、各地で活躍されている多くの会員を育み、社会復帰される方に大きく貢献されておられます。あらためて、深甚なる敬意と感謝の意を表する次第です。

忘れもいたしません、呉みどり断酒会の一周年記念大会は、断酒してまもない不安の多い私に、断酒会のすばらしさと、断酒に対する勇気を奮い立たせてくれました。私の断酒の原点として、今も忘れることなく、記念大会のお招きには、喜んで出席させていただき断酒の励みにさせていただきます。皆さんからは、いつも親しく声をかけて下さって感謝で一ぱいでございます。

今後も、変わらぬご好誼をお願いするとともに、呉みどり断酒会並びに呉みどりヶ丘病院の、ますますのご発展とご活躍をお祈りして、お祝いの言葉といたします。



祝 辞

島根県断酒新生会会長 井原 利

呉みどり断酒会創立二十周年記念大会おめでとうございます。

島根県断酒新生会を代表し心からお喜び申し上げます。

一口に二十年と申しますが、その道は決して平坦な道ばかりではなかったと思います。これを立派に克服され、今日の輝かしい日を迎えられました皆様に対し衷心より敬意を表する次第であります。

呉みどり断酒会の今日がありますのも、生みの親、育ての親であります長尾邦雄、長尾澄雄両院長先生の格別のご指導、ご庇護の賜でありまして、同志の一人として満腔の敬意と感謝を捧げます。

松村先生の教えの中に「語るは最高の治療である」とあります。我々が例会、研修会等でお互いがそれぞれの体験を語り合う中で、お互いが共感し、仲間意識にめざめ、連帯感を強くし、支い合い、助け合う力によって、始めて一人では出来ない酒害を克服する道であることを教えられておると思います。又初心に立ちかえることが出来る道であると存じます。

我々酒害者の生きる道は唯一つ断酒継続であります。それを可能にするのはしっかりと断酒会があればこそであります。

今日の記念大会を契機として、初心にかえり、入沢会長さんを中心として、一層仲よく力をつくして地域社会から愛される呉みどり断酒会を目指し更なる発展をされんことを祈念して簡単でございますが祝辞と致します。



二十一年のあゆみ



| 年月日 | 事項 | 年月日 | 事項 |
|---------|---|---------|--|
| 42・2・9 | 昭和四十二年一月、児玉正孝（故人）和歌山断酒道場長、高橋和義氏（故人）、熊野久夫現広島断酒ふたば会会長が長尾病院を初訪問、断酒会結成の準備がはじまる。 長尾病院長長尾邦雄先生、呉みどりヶ丘病院長長尾澄雄先生、長尾病院名誉総婦長寺岡光子様等をはじめ全院挙げての御指導と御援助のもとに、入院中の酒害者二十九名で結成初例会を院内で開催。 長尾病院にアルコール中毒症患者の為の専門病棟「酒害センター」（二十七床）開設される。 広島断酒ふたば会一周年記念大会が東雲会館で開催され参加、全日本断酒連盟傘下各地断酒会との交流がはじまる。 全断連第四回全国大会が岡山市山陽新聞社大講堂で開催され初参加。 | 43・4・28 | 大阪市で開催された全断連代表者会議に初めて代表を送る。 高松市で開催された第三回近県断酒交歓会（中四国ブロック大会の前身）に初参加。 第五回全国大会（静岡市）参加。 長尾病院第一センターで第二回酒なし忘年会を開催しNHKテレビで初放映される。 結成二周年記念大会を第一センターで開催。 和歌山断酒道場開所式に代表者参加。 長尾病院栃原グリーンロッジに於て広島ふたば、呉みどり共催による第一回合同夏期断酒研修会を行う。 第十七回日本精神衛生全国大会が広島市で開催され、日本精神衛生連盟名誉総裁高松宮殿下が長尾病院酒害センターを御視察になり、代表者が断酒会の現況を御奏上親しくお言葉を賜わる。 第六回全国大会（高知市）参加。 第三回酒なし忘年会を第一センターで開催す。 結成三周年記念大会を第一センターで開催し、全断連大野理事長を初めて呉市に迎える。 栃原グリーンロッジに於て第二回広島県夏期断酒研修会を開催。 |
| 43・1・27 | 長尾病院第一生活療法センターで第一回酒なし忘年感謝会を開催す。 大韓民国断酒同盟崔栄煥会長を迎え特別例会開催。 長尾病院第一センターで結成一周年記念大会を開催。 市内大空山公園で酒なし花見会を開催す。 | 45・2・11 | |
| 4・7 | | 7・25 | |
| 2・11 | | 12・21 | |
| 12・16 | | 11・26 | |
| 11・2 | | 11・6 | |
| 10・8 | | 8・9 | |
| 8・22 | | 4・13 | |
| | | 44・2・9 | |

| 年月日 | 事項 | 年月日 | 事項 |
|---------|---|----------|--|
| 45・8・16 | 呉市西保健所に於て酒害相談所を開設（毎月第三日曜日） | 48・11・25 | 第十回全国大会（大阪市）参加。 |
| 9・15 | 第七回全国大会（北九州小倉区）参加。 | 49・2・3 | 第七回酒なし忘年会を第一センターで催す。 |
| 10・8 | 長尾病院酒害センターを發展的に解消し、アルコール中毒専門の呉みどりヶ丘病院（院長長尾澄雄先生、百二十床）が開院される。 | 4・7 | 呉市総合福祉会館ホールで七周年記念大会を開催。 |
| 46・2・11 | 第四回酒なし忘年会を第一センターで催す。 | 7・27 | 栃原グリーンロッジに於て第四回広島県夏期断酒研修会を担当開催。 |
| 4・18 | 結成四周年記念大会を第一センターで催す。 | 9・16 | 第十一回全国大会（横浜市）参加。 |
| 6・27 | 呉信用金庫本店ホールで第六回中四国ブロック大会を開催する。 | 12・11 | 第八回酒なし忘年会を呉市総合福祉会館で催す。 |
| 7・24 | 広島県断酒会連合会が発会され広島市社会福祉センターホールの発会式に参加 | 12・13 | 広教育センターで八周年記念特別例会を開催。 |
| 11・22 | 栃原グリーンロッジに於て第一回県連主催に依る広島県夏期断酒研修会を担当開催。 | 8・10 | 栃原グリーンランドでソフトボール交歓会を催す。 |
| 11・25 | 第八回全国大会（東京都）参加。 | 8・25 | 市内小仁方海岸で海水浴交歓会を行う。 |
| 12・18 | 第五回酒なし忘年会を第一センターで催す。 | 10・5 | 第十二回全国大会（札幌市）参加。 |
| 7・22 | 呉市西保健所講堂で結成五周年記念大会を開催。 | 11・9 | 呉みどりヶ丘病院開設五周年記念会が第一センターで催され参加。 |
| 47・2・20 | 栃原グリーンロッジに於て第二回広島県夏期断酒研修会を担当開催。 | 12・10 | 第四回広島県断酒大会、第五回県連記念大会を市内原小学校講堂で開催。 |
| 11・4 | 第九回全国大会（広島市）参加。 | 51・2・8 | 第九回酒なし忘年会を総合福祉会館で催す。 |
| 12・16 | 第六回酒なし忘年会を第一センターで催す。 | 4・11 | 九周年記念例会を第一センターで開催。 |
| 48・2・11 | 呉市総合福祉会館ホールで六周年記念大会を開催。 | 8・29 | 栃原グリーンランドでソフトボール交歓会を催す。 |
| 8・5 | 栃原グリーンランドで院内会員とのソフトボール交歓会を催す。 | 9・26 | 呉みどりヶ丘病院リハビリセンター増築落成記念特別例会に参加、以後当センターで土曜例会を行う。 |
| | 市内小仁方海岸にて海水浴交歓会を催す。 | 12・13 | 第十三回全国大会（高松市）参加。 |
| | | 52・2・13 | 第十回酒なし忘年会を総合福祉会館で催す。 |
| | | | 呉市民会館で創立十周年記念大会を開催。 |

| 年月日 | 事項 | 年月日 | 事項 |
|---------|---|----------|--|
| 52・5・8 | 栃原グリーンランドでソフトボール交歓会を行う。 長浜海水浴場で海水浴を行う。 | 55・10・19 | 呉みどりヶ丘病院創立十周年記念大会が催され参加。 |
| 7・31 | 呉市民会館で第七回広島県断酒大会を開催。 | 11・2 | 第十七回全国大会（松江市）参加。 |
| 9・11 | 第十四回全国大会（福岡市）参加。 | 12・17 | 第十四回酒なし忘年会を総合福祉会館で催す。 |
| 11・20 | 第十一回酒なし忘年会を総合福祉会館で催す。 | 56・2・15 | 呉みどりヶ丘病院リハビリセンターに於て創立十四周年記念会を開催。 |
| 12・14 | 呉みどりヶ丘病院リハビリセンターで創立十一周年記念会を開催。 | 4・26 | 栃原グリーンランドに於てソフトボール交歓会を行う。 |
| 53・2・5 | 栃原グリーンランドでソフトボール交歓会を行う。 | 7・26 | 恋ヶ浜海水浴場に於て海水浴を行う。 |
| 4・9 | 恋ヶ浜海水浴場に於て海水浴を行う。 | 8・29 | 第十八回全国大会（名古屋）参加。 |
| 7・30 | 栃原グリーンロッジで林間パーベキュー例会を行う。 | 12・16 | 第十五回酒なし忘年会を総合福祉会館で催す。 |
| 8・23 | 第十五回全国大会（高知市）参加。 | 57・4・11 | 呉市民会館に於て創立十五周年を記念して第十七回中国、四国断酒ブロック大会を開催。 |
| 11・11 | 第十二回酒なし忘年会を総合福祉会館で催す。 | 5・9 | 栃原グリーンランドに於てソフトボール交歓会を行う。 |
| 12・13 | 呉みどりヶ丘病院リハビリセンターで創立十二周年記念会を開催。 | 7・25 | 恋ヶ浜海水浴場に於て海水浴を行う。 |
| 54・2・4 | 栃原グリーンランドでソフトボール交歓会を行う。 | 8・22 | 栃原グリーンロッジにて林間パーベキュー例会を行う。 |
| 4・22 | 狩留賀海水浴場に於て海水浴を行う。 | 9・10 | 土師ダム勤労者保養センターに於て第十二回広島県断酒夏季研修会を担当開催。 |
| 7・22 | 呉市民会館で第九回広島県断酒大会を開催。 | 10・12 | 第十九回全国大会（和歌山）参加。 |
| 9・9 | 第十六回全国大会（静岡市）参加。 | 12・15 | 第十六回酒なし忘年会を総合福祉会館で催す。 |
| 11・11 | 第十三回酒なし忘年会を総合福祉会館で催す。 | 58・2・6 | 呉みどりヶ丘病院リハビリセンターに於て創立十六周年記念会を開催。 |
| 12・12 | 呉みどりヶ丘病院リハビリセンターで創立十三周年記念会を開催。 | 5・8 | 栃原グリーンランドに於てソフトボール交歓会を行う。 |
| 55・2・10 | 栃原グリーンランドでソフトボール交歓会を行う。 | 7・24 | 恋ヶ浜海水浴場に於て海水浴を行う。 |
| 4・13 | 恋ヶ浜海水浴場に於て海水浴を行う。 | 10・23 | 第二十回全国大会（福島市）参加。 |
| 7・27 | 土師ダム勤労者保養センターに於て第十回広島県断酒夏季研修会を担当開催。 | 11・24 | 第十二回広島県精神衛生大会で呉みどり断酒会が功勞表彰を受賞する。 |
| 9・15 | | | |

| 年月日 | 事項 |
|----------|---|
| 58・12・14 | <p>第十七回酒なし忘年感謝会を総合福祉会館で催す。 呉みどりヶ丘病院リハビリセンターに於て創立十七周年記念会を開催。</p> <p>栃原グリーンランドにてソフトボール交歓会を行う。 恋ヶ浜海水浴場にて海水浴を行う。 土師ダム勤労者保養センターに於て第十四回広島県断連夏季研修会を担当開催。</p> <p>第二十一回全国大会(岡山市)参加。</p> <p>第十八回酒なし忘年感謝会を総合福祉会館で催す。 呉みどりヶ丘病院リハビリセンターに於て創立十八周年記念会を開催。</p> <p>栃原グリーンランドにてソフトボール交歓会を行う。 狩留賀海水浴場にて海水浴を行う。 今月より「新会員の集い」を行う。</p> <p>第二十二回全国大会(長崎市)参加。が催され参加。 呉みどりヶ丘病院創立十五周年(新病棟落成)記念大会 第十九回酒なし忘年感謝会を総合福祉会館で催す。 呉みどりヶ丘病院リハビリセンターに於て創立十九周年記念会を開催。</p> <p>栃原グリーンランドにてソフトボール交換会を行う。 呉みどり断酒会より芸南断酒会が分岐、発会する。 栃原グリーンロッジにて夏季レクリエーションを行う。 湯来町「広島YMC Aみのち学荘」に於て第十六回広島県断連夏季研修会を担当開催。 第二十三回全国大会(札幌市)参加。</p> |
| 59・2・12 | |
| 60・2・10 | |
| 61・2・9 | |
| 10・12・11 | |
| 10・10・20 | |
| 10・10・13 | |
| 10・10・7 | |
| 7・28 | |
| 5・12 | |
| 10・12・19 | |
| 10・10・21 | |
| 9・14 | |
| 7・22 | |
| 4・29 | |
| 10・5・15 | 61・12・17 |
| 9・13 | 62・2・8 |
| 7・27 | <p>第二十回酒なし忘年感謝会を総合福祉会館で催す。 呉市民会館で創立二十周年記念大会を催す。</p> |
| 6・29 | |
| 5・11 | |

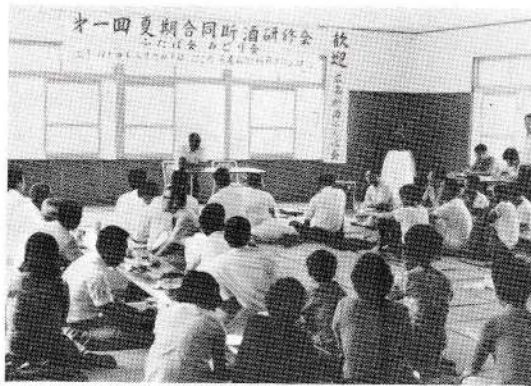
思い出のアルバム



創立1周年記念大会



高松宮殿下酒舎センター御視察



第一回夏期合同断酒研修会
(現在の広島県断連夏季研修会)



第6回酒なし忘年会



創立6周年記念大会

思い出のアルバム



創立9周年記念例会



創立7周年記念大会



ソフトボール交歓会



第12回酒なし忘年会



創立12周年記念会

思い出のアルバム



創立10周年記念大会



創立10周年記念大会



創立14周年記念会



創立13周年記念会

思い出のアルバム



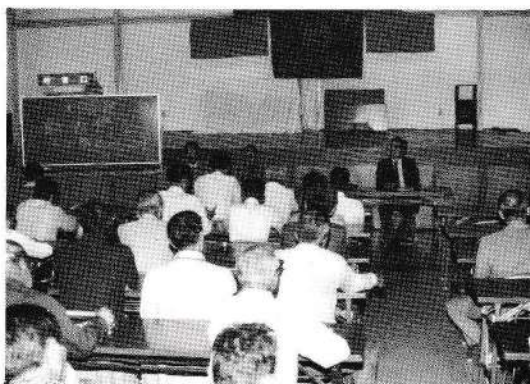
第17回中国・四国断酒ブロック大会
(創立15周年)



創立15周年記念会



バーベキュー例会



土曜例会1000回記念



創立19周年記念会

思い出のアルバム



ソフトボール交歓会



バーベキュー例会



酒なし忘年感謝会



海水浴

役員名簿

| | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|------|------|-------|--------|--------|------|------|-------|-------|------|------|------|------|------|
| 常任理事 | 常任理事 | 常任理事 | 事務局次長 | 東部厚生部長 | 西部厚生部長 | 會計部長 | 編集部長 | 西部支部長 | 東部支部長 | 總務部長 | 監査役 | 副會長 | 事務局長 | 副會長 |
| 兼田定夫 | 柳瀨顯介 | 内前貞夫 | 山本晃 | 朝本二三男 | 上山悟 | 高路博之 | 山田勝 | 平田元次 | 室義信 | 田中正直 | 玉理仁司 | 高路忠文 | 須田一郎 | 入澤卓 |
| 婦人部長 | 理事 | 理事 | 理事 | 理事 | 理事 | 理事 | 理事 | 理事 | 理事 | 理事 | 理事 | 理事 | 理事 | 常任理事 |
| 高路テ路子 | 浮田寛 | 若菜信久 | 矢津登 | 岡本満利 | 宗政貢 | 川西昭 | 畝重實 | 長町貞重 | 堀内正博 | 清代一保 | 兼田勇 | 水船健三 | 福田俊彦 | |

編集後記

院内断酒会から歩み始めた当会が、生みの親、長尾病院、長尾邦雄先生と、育ての親、呉みどりヶ丘病院長尾澄雄先生の酒害者更生に対する深い愛情と熱心な御指導、御援助のもとに当会は成長し、地域社会にしっかりと根を張り、創立二十周年の記念すべき日を迎える事が出来ましたのは、会員一同筆舌に尽し難い喜びとするものであります。

諸関係の皆様からお受けした御恩の数々にあらためて深く感謝申し上げます。

この度、記念誌「三十年のあゆみ」刊行に当りましては、両院長先生はじめ各界の方々の深いご理解を頂いて、原稿を賜わり厚くお礼申し上げます。

本誌は院内より誕生してから二十年になるまでの「あしあと」を記したものであります。院内から誕生した当会は、多端な曲折がありました。その都度、両顧問先生をはじめ先輩断酒会の暖かい支え、そして断酒努力をされた多くの先輩の業跡も又尊く、おかげ様で今日の当会の存在があります。

激動的な社会のかけに泣く酒害者は日々多くなつてまいります。

社会の一隅を照らす断酒のかがり火を悠久不滅とする為に、より良い断酒会を目指して決意を新にし、精進を続けてまいりたいと念願いたしております。

今後共一層のご理解とご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

編集委員会

